

JP50112652U

Publication Title:

No title available

Abstract:

Abstract not available for JP 50112652

(U)

Courtesy of <http://v3.espacenet.com>



実用新案登録願

昭和 年 月 日

特許庁長官

殿

1、考案の名称 ^{フリガナ} 富士通株式会社における輸出板

2、考案者

^{フリガナ} 住所 ^{フリガナ} 愛知県豊田市井上町8丁目11番地
氏名 杉 本 達 義

3、実用新案登録出願人

^{フリガナ} 住所 ^{フリガナ} 愛知県豊田市井上町8丁目11番地
氏名 豊花堂工業株式会社
代表者 杉 本 達 義

4、代理人

住所 名古屋市市中村区井深町1番1号 本陣街220~222号室
氏名 弁理士 園 部 祐 夫
(5962) 電話 (452) 代表 5868番

5、添附書類の目録

- (1) 明 細 書 1 通
- (2) 図 面 1 通
- (3) 委 任 状 1 通
- (4) 出願審査請求書 1 通

方式
密査



49 023728



明 細 書

1. 考案の名称 種芝繰出装置における繰出板

2. 実用新案登録請求の範囲

先端を種芝の繰出方向に向けた多数の引掛ピンを板上に植設し、これを、規格寸法に切断された多数の種芝を積重ねたマガジンの下口とその前方の間で往復移動させるように設けてなる種芝繰出装置における繰出板。

3. 考案の詳細な説明

この考案は規格寸法に切断された種芝をマガジンに積重ねて収容し、これを下方から一枚ずつ繰出すようにする繰出装置の繰出板に関するものである。

芝生造成のため、ほふく枝のからみ合つた芝を規格寸法に切断してはぎ取つた種芝を、造成地に

張りつける作業において、可鍛式の種芝繰出装置により種芝を順次に繰出すようにすれば、作業がはかどり、人力の節約にもなる。しかるに、種芝は柔軟であるから、通常の押出式繰出板を使用しても円滑な繰出しを期待できず、マガジンの下口で下方の一枚の種芝を繰出板の板面で受け、該板の前進によりその一枚を上に乗った種芝から分離して繰出すようにしなければならない。然るに下方の一枚には、上方に積重なった種芝の重量がかかっているから、摩擦によつて円滑な分離ができず、これが繰出板上でスリップし、或は繰出板上で歪曲して繰出を困難又は不能にする。

本考案はかかる欠点がないようにしたものであつて、その実施態様の一例を添付図面に従つて説明すれば次のとおりである。

図中 1 は繰出装置の支持棒体、2 は該棒体 1 上に
 取付けたマガジンであつて、これを仕切板 3 によ
 り仕切つて複数の小室 4 を繰出方向と直交する方
 向に並列に設け、その各小室に規格寸法に切断さ
 れた種芝 5 を積重ねて納める。5 はマガジン 2 の
 すぐ前部に差渡しして両端を支持棒体 1 上で支持し
 た軸体であつて、これに各小室の前部に対応する
 連動ずつの逆止爪 6 を下向きに突出し、両端には
 支持棒体 1 に係合するストツバ 7 を設ける。8 は
 マガジン 2 の各小室 4 の下口に、大略一枚の種芝
 5 の間隔を置いて配置した繰出板であつて、その
 両側を支持棒体 1 の対応内面に設けた案内 9 によ
 り直線移動自由に支持する。この繰出板 8 は、前
 記下口に対応する支持面 10 の後部に、前記下口
 にはば接する高さとした受支面 11 を設け、該面

1 / の前縁に逆止爪 6 を受入れる欠部 13 を形成
2 する。また、支持面 10 には先端を種芝 2 の繰出
3 方向に向けた多数の引掛ピン 13 を植設する。

繰出板 8 は第 3 図のように支持面 10 を小室 4
5 の下口に合致させた位置と、第 4 図に示すように
6 その下口の前方、具体的に言えば逆止爪 6 より前
7 方に突出する位置との間で往復移動を行わせる。

8 本考案の作用を説明するに、繰出板 8 の支持面
9 10 を各小室 4 の下口に合致させた第 3 図の後退
10 位置では、その上に各小室 4 の最下位の種芝 2 が
11 乗る。こゝで繰出板 8 を前進位置に移動すると、
12 支持面 10 に支持された種芝 2 が引掛ピン 13 に
13 より引掛けられて支持面 10 との間でスリッブを
14 生ずることなく繰出され、その先端縁が逆止爪 6
15 に突き当たると、これが軸体 3 と共に時計方向に回

転して逃げる。そして支持面 10 に続いて受支面 11 が各小室 4 の下口に進出するため、新たに最下位となる種芝 2 がその受支面 11 で支持されるに至り、繰出板 5 が第 4 図のように前進極限に達すると、繰出された種芝 2 は逆止爪 6 より前方に進み、該爪 6 が戻り回転して欠部 12 内に入る。

こゝで第 5 図のように繰出板 5 を後退しはじめると、繰出された種芝 2 が逆止爪 6 の前面に突き当り、かつ支持面 10 の引掛ピン 13 から相対的に脱出して繰出位置に残り、また受支面 11 により新たに最下位になつた種芝 2 が支持面 10 上へ相対的に移動し、そのときには引掛ピン 13 がその種芝の下面を滑つて後退方向に移動するから、第 5 図と同じく第 6 図のように最後退位置になつた支持面に受止められて次の繰出準備を終る。ま

たマガジン2の前部に繰出された藁芝3は繰出板8から全く離れて所定の位置に放出される。

前記実施例では逆止爪6がなくてもよい。

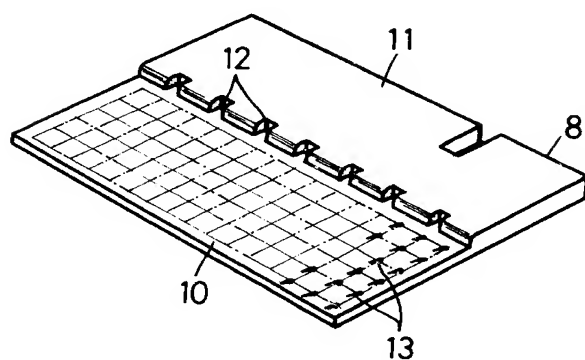
本考案は前記実施例の説明により明らかにしたように、繰出板に藁芝の繰出方向に向けた多数の引掛ピンを植設することにより、積重ねられた藁芝の下方の一枚をスリツブさせることなく正確に繰出し得るすぐれた効果がある。

4 図面の簡単な説明

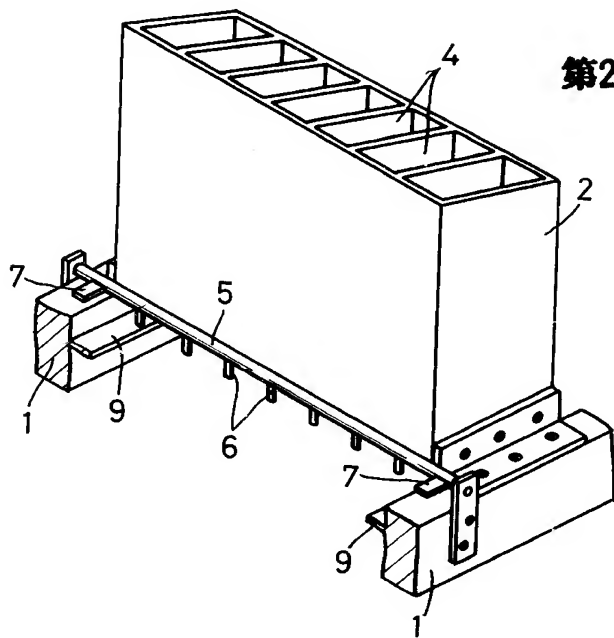
添付図面は本考案の実施態様例を示し、第1図は繰出板の斜視図、第2図はマガジンと逆止爪の斜視図、第3～6図は藁芝の繰出作動を説明した縦断側面図である。

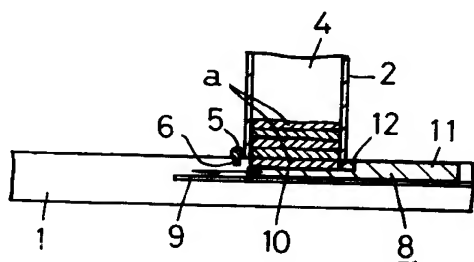
3→藁芝、2→マガジン、8→繰出板、9→案内、10→支持面、13→引掛ピン

第1図

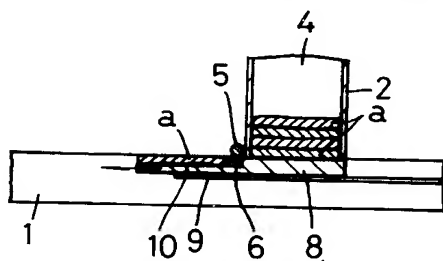


第2図

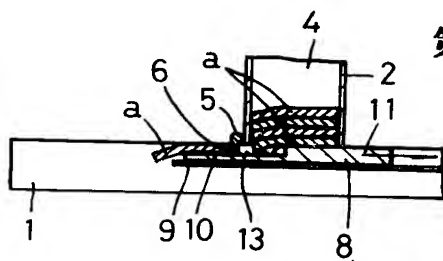




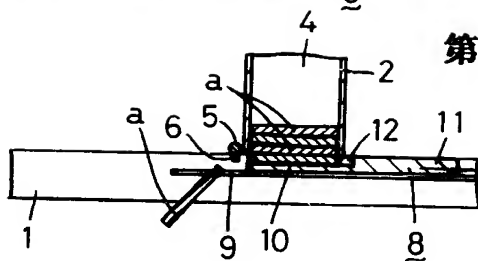
第3図



第4図



第5図



第6図